

総合的な学習の時間学習指導案

指導者 高石 洋平

- 1 日時 令和5年 11月 10日(金) 第5校時
- 2 場所 6年生教室
- 3 学年 第6学年 男子13名 女子7名 計20名
- 4 単元名 「神石の魅力を伝えよう」
- 5 単元について

○児童観

本学級の児童は、総合的な学習の時間において、神石の特産物である神石牛について調べる学習や広める活動に取り組んでいる。

児童は、4月に、「神石高原ランチ」で神石牛を使ったカレーを食べたことで、神石牛について興味をもった。「神石牛」の歴史や町の施策、商品などをインターネットで調べる中で、「調べても分からないことは、役場の神石牛担当の方に聞いたほうがよい。」ことに気付き、産業課の方から、現在取り組んでいる町の施策等について話を伺った。その中で、「神石牛は県内外に広く認知されつつあるが、多くの人に食べてもらうには手頃な値段の商品があればいい。しかし、思いつかないので困っている。」という話を聞き、「自分達で神石牛を使った商品を開発したい。」という目標を設定した。そうしたアイデアを考えていく中で、「自分達のアイデアを形にしてもらえるお店に協力してもらうことが必要だ。」ということに気付き、「株式会社エブリイ」の方に協力をお願いした。その際、「神石高原町には、神石牛以外にもたくさんの特産物がある。もし、商品開発をするなら、神石高原町の特産物をたくさん使ったメニューを考えてはどうか。」と提案を受けた。児童同士で話し合う中で、国語科の授業と関連させて「神石高原町の特産物をまとめた報告書を作って、エブリイの方に見てもらおう。」と考えた。報告書を紹介する中で、食材に合った調理方法や商品開発の助言を頂くことができた。

2学期は、商品開発を行っていくための企画書の作成や広報活動の方法について、全体及び小グループに分かれて検討を行っている。

本学級の児童に、総合的な学習についてのアンケートを行ったところ、結果は次の通りとなった。

(肯定的評価/20人中)

課題発見力	1	身の回りのものやできごとから自分が調べてみたいことを見つけています。	17
	2	地域の方や問題解決に向けて取り組んでいる人々が困っていること(問題)を知り、それらを解決するための方法を考えています。	12
	3	友達や、地域の人々がもっている悩みを解決したり、願いをかなえてあげたりしたいと思います。	15
課題解決力	4	解決しようとする課題について何をすればよいのか、何が使えそうかを考えることができます。	14
	5	課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材をしたりしています。	13
	6	課題を解決するための情報を集める前に、どのような方法だと必要な情報を集めることができるのかを考えています。	14
	7	たくさんの資料から、必要な情報を集めることができます。	17
	8	集めた情報から適切なものを選んで、調べたことをまとめることができます。	14
	9	調べてわかったことを、わかりやすい方法(図、グラフ、表など)を考えてまとめています。	15
	10	情報を比べたり(比較)、仲間分けしたり(分類)、関係を見付けたり(関係付け)して何が分かるのかを考えています。	14
	11	友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。	16
	12	発表する相手を意識して、自分の考えとその理由を明らかにして、分かりやすく伝わるように発表を工夫しています。	15
	13	自分の考えを進んで伝えていきます。	13

	14	友達と話し合う時、お互いが納得のいく考えをつくらうとしています。	16
振り返り力	15	学習の振り返りをするときには、「どこまで分かったか。」「学習方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」を考えています。	16
	16	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	18

アンケートの結果から、課題発見力の「地域の方や問題解決に向けて取り組んでいる人々が困っていること（問題）を知り、それらを解決するための方法を考えています。」の項目において、肯定的に回答する児童の割合が比較的低かった。問題を解決するための手立てについて、指導者が選択肢や手法を提示するなどの指導の工夫が不十分であったためと考えられる。

その一方で、課題解決力の「たくさんの資料から、必要な情報を集めることができます。」の項目は肯定的に回答する児童の割合が高かった。インターネットやパンフレットなどの複数の資料から必要な情報を自分達で選択する場面を多く設定したためだと考えられる。また、振り返り力の「学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。」の項目も肯定的に回答する児童の割合が高かった。探究的な学習が連続できるような単元構成の工夫や振り返りの視点を示したことなどが効果的であったと考えられる。

○単元観

本単元では、「神石の魅力をPRする」活動を通して、神石高原町の産業が抱える課題、それに対して取り組んでいる人々の思いや願いに気づき、それらの課題を自分事として捉え、自分達にできることで地域に貢献したいという意欲や心情を育てていきたい。その思いのもと、様々な方法で課題解決型学習を進めながら、自分達の力で最善解を導き出せるような学習活動をねらいとしている。

○指導観

指導に当たっては、課題発見力・課題解決力・振り返り力をつけるために以下の工夫を取り入れる。

課題発見力	まず、「神石牛」の歴史や町の施策、商品について調べることで、「神石牛」に対する興味や関心を高める。その後、役場やエブリイの方から「神石牛」についての町の施策や課題に感じていることなどについて聞くことで、「自分達で、多くの人に手頃な値段で食べてもらえる神石牛や神石高原町の特産物を使った商品を開発しよう。」と目標を立て、意欲的に行動できるように取り組ませていく。また、問題解決に向けての選択肢や手法を事前に用意して示したりすることで、児童が意欲的に学習に取り組むことができるようにする。
課題解決力	調べたことについては、整理し可視化させたり、グループでアドバイスをし合ったりすることで、自分達の欲しい情報を得られているのか、次に自分達はどんな情報を必要としているのかを考えさせていく。また、知り得た情報をお互いに交流し合ったり、自分達の情報収集や整理分析に役立てたりできるようにする。
振り返り力	振り返りの時には、「どこまで分かったか」「学習方法でうまくいったことや失敗したことなどの理由」「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」等の視点を与え、課題に対する改善点について考えるなど今後の学習を見通した振り返りとなるようにさせる。また、学習の進捗や状況に応じて、ショートスパンの振り返りとロングスパンの振り返りを書かせることで、それぞれの活動での思考の変化や単元を通しての自分の変化について客観的に気付くことができるようにする。

○単元の目標

神石高原町の産業についての探究的・協働的な学習を通して、「神石牛」の歴史や、神石高原町が取り組んでいる町の施策について理解する中で、「神石の魅力」をPRするための課題に気付き、自分達にできることについて考え、「神石の魅力PRする」ために、どうすればよいか自分なりの最善解を見出すことができるようにする。

6 評価規準

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
		課題発見力・課題解決力	振り返り力
単元の評価規準	①神石高原町が地形や気候の条件を生かし、多くの特産物を生産・出荷していることを理解している。 ②商品開発を行うための企画書作成やPR方法を考える上で、相手意識をもち、伝わりやすい方法で発表する技能を身に付けている。 ③神石高原町についての理解は、神石高原町の特産物を使用した商品開発という目標に向かって、探究的に学習してきたことの成果であることに気付いている。	①「神石の魅力」をPRするための方法や手順を考え、確かな見通しをもって計画を立てている。 ②「神石の魅力」をPRするために必要な情報を、効率的に収集する手段を選択したり蓄積したりしている。 ③他者との意見交流やゲストティーチャーの話等から、それぞれの事象を比較したり関連付けたりすることで、自分の考えに理由や根拠をもつことができている。 ④相手や目的に応じて、効果的に表現することができている。	①自分と異なる意見や他者の考えを受け入れて尊重し、自身の意見を発展させようとしている。 ②自分の意見だけでなく、他者の意見も生かしながら、協働して問題の解決に取り組もうとしている。 ③「神石の魅力」をPRするという課題の解決を「自分事」として捉え、自分ができることに取り組もうとしている。


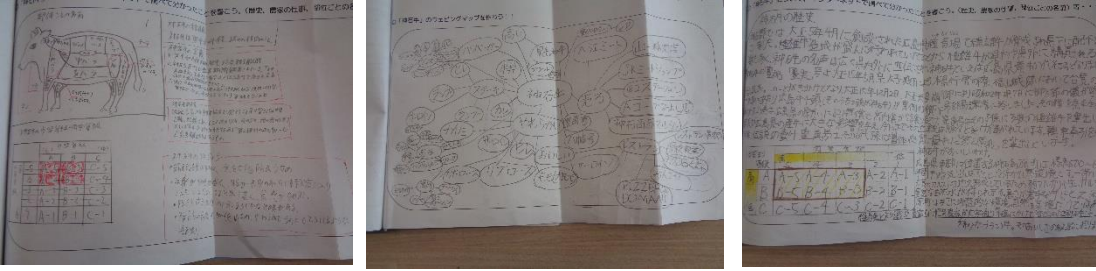
7 単元におけるルーブリック（思考力・判断力・表現力等）

	A	B	C
項目	他者との意見交流やゲストティーチャーの話等から、それぞれの意見の共通点や相違点を見付け、それらを比較したり関連付けたりすることで、自分の考えに理由や根拠をもつことができている。	他者との意見交流やゲストティーチャーの話等から、それぞれの事象を比較したり関連付けたりすることで、自分の考えに理由や根拠をもつことができている。	他者との意見交流やゲストティーチャーの話等から、それぞれの事象を比較したり関連付けたりすることができず、自分の考えに理由や根拠をもつことができている。

8 学習過程ごとの主な学習活動（全70時間）

★＝立ち止まりポイント

（本当にこれでいいのか、壁にぶつかったときどうすればいいのか考える場面）

時数	学習過程ごとの主な学習活動
6	<p>【4月】</p> <p>○単元の課題設定をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会や休憩時間を使って、単元のテーマの案を出し合う。 ・「神石高原ランチ」を食べ、「神石牛」について関心をもつ。  <p>年間テーマ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>神石の魅力をPRしよう。</p> </div> <p>【5月】</p> <p>課題：「神石牛」とは、どんな牛なのだろう。</p> <p>○「神石牛」について、インターネットで情報を集める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神石牛」について調べる中で、自分達が興味をもって取り組むことができる内容を考える。 ・イメージマップを使って、調べたい対象を明確にする。  <p>★インターネットだけでは調べられない情報が多くあることに気付く。</p> <p>○神石高原町役場産業課の方に「神石牛」について質問することを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神石牛は、どうしてこんなに値段が高いのか。」、「神石牛を使ったメニューには、どんなものがあるのか。」、「神石高原町は神石牛をPRするために、どんな取組を行っているのか。」等についての質問をまとめる。

【6月】

2 ○神石高原町役場産業課の方から話を聞く。

- ・質問に答えてもらう。
- ・全国の商品の中には、芸能人やユーチューバーとタイアップして「付加価値」をつけて、ブランド化する実践事例があることを知る。
- ・「神石牛」にも、何か「付加価値」をつけたいと考えていることを知り、自分達「三和小学校6年生」が「神石牛」の「付加価値」になりたいと考える。



課題：神石牛をPRするための、レシピや販売方法を、どのように考えたらよいのだろう。

2 ○今後の活動について考える。

★たくさんの人に食べてもらうためには、「早く調理できる。」、「手頃な値段で購入できる。」、「たくさんの人が集まる場所を売る場所に設定する。」、「食材の入手経路を確保する。」こと等の課題に対して、自分達だけでは解決できないことに気付く。

- ・商品を開発したり、販売したりする上での課題の解決方法を考える。

1 ○「株式会社エブライ」の方のお話を聞く。

- ・「エブライ」の取組や、神石高原町との関わりについて話を聞く。
 - ・「エブライ」がメニューや価格設定、場所などをどのように決定しているのかを聞く。
 - ・神石高原町には「神石牛」以外にも、たくさんの特産品があることを聞く。
 - ・神石高原町の特産物を生産している方に話を聞いて商品開発を考えた方がいいのではと提案を受ける。
- ★「ビジネスパートナーになるに当たって、6年生の『熱意』が見たい。どれだけ本気で町内を盛り上げようとしているのかを見せて欲しい。」という課題を提示される。



1 ○今後の活動について考える。

- ・自分達が、神石高原町の特産物を分かっていないことに気付き、PR方法を考える前に、「まずは自分達が神石高原町の特産物について調べたい。」と考える。
- ・エブライの方に「熱意」を伝えるためにも、「調べたことを形にしたい。」と考える。
- ・国語科で学習した「報告書」を作成して、エブライの方に見て頂きたいと考える。

課題：商品化するための企画書は、どのように作成したらよいのだろう。


3 ○神石高原町の特産物を報告書にまとめる。

- ・米、トマト、しいたけ・こんにゃく等の農家の方に取材する。
- ・生産の際の苦労等を聞き、神石高原町が抱える課題を捉える。

5 【7月】

○神石高原町の特産物を報告書にまとめる。


- ・役場の方に相談しながら報告書を作成する。
- ・農家の方への取材を通して、商品開発への見通しをもつ。



2 【8月】


○エブリイの方に報告書を渡し、商品開発の協力をお願いをする。

- ・商品開発に必要な条件について聞く。
- ・エブリイの商品のコンセプトについて話を聞く。
- ・商品を販売する上での企画書の作成の仕方について話を聞く。



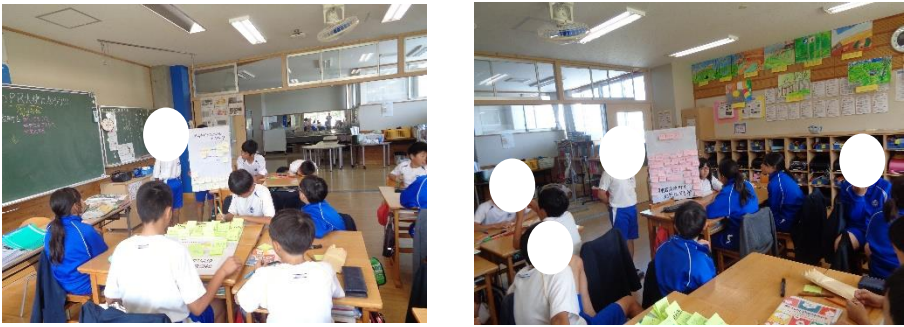
1 5 【9月・10月・11月・12月】

○自分達が「神石高原町をPRするため」に取り組みたいことについて話し合う。



★たくさんの取り組みの中から「神石高原町をPRする」という目標に沿うものを精選していく必要があることに気付く。

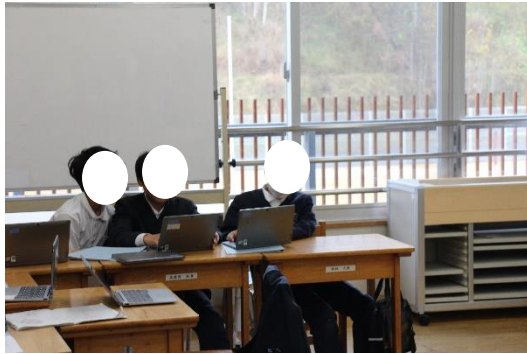
○「神石高原町をPRする」という目的に沿った取り組みを考え、決定する。



○自分達が選んだ取り組みにとりかかる。 (本時)

- ①「弁当」、「グッズ」、「のぼり(旗)」、「販促(チラシ)」のグループに分かれる。
- ②グループで役割を決めて、それぞれの方法を考える。
- ③「企画書」、「デザイン」等、それぞれの取り組みを企画書や提案書の形でワードやパワーポイントにまとめたり、実際に作ったりする。

※分からないところがあれば、その都度「エブリイ」の方に相談する。



- 2 ○グループごとで考えたことをお互いにプレゼンテーションする。
- ・お互いのグループが「神石高原町をPRすることができるか」、「それぞれのグループの取り組みが神石高原町をPRするものとなっているか」という視点で意見を出し合う。



- 3 ○エブリイの方にプレゼンテーションをするための準備をする。
- ・実際に「神石特製牛丼」を作って、校長先生や教頭先生に意見をもらう。
 - ・マスコットキャラクターの名前や性格などの設定を考える。



- 2 ○各グループの取組の計画を、エブリイの方にプレゼンテーションする。
- ・内容について指導・助言を受けて修正する。
 - ・他社の牛丼の分量を量ったり、材料を調べたりして、自分達の商品の改善案を話し合う。
 - ・エブリイから、協力の許可が出る。
 - ・「6年生の取組を神石高原町の町長に発表してほしい」と依頼され、そのために町内の特産物について詳しく調べるように伝えられる。



★自分達だけで調べるのではなく、地域の特産物に詳しい方に話を伺う必要があることに気付く。

- 3 ○「神石牛」、「神石米」、「こんにゃく」、「しいたけ」についてゲストティーチャーからの話を聞く。
- ・企画書を作成する。



【1月】

- 1 ○企画書を、校長先生にプレゼンテーションする。
- ・校長先生からの質問に回答する。

<p>5</p> <p>5</p> <p>2</p>	<p>○商品の改良、告知方法の制作に取り掛かる。（「商品開発、グッズ、PR動画等」）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に商品を製作（試食）するなどして、量や価格の見直しを検討する。 <p>※複数種類の販売を計画していた場合、種類を絞ることも含めて検討する。</p> <p>○商品の販売準備を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの商品グループに分かれて準備を行う。 ・当日の役割を決める。 <p>○これまでの活動を、町長にプレゼンテーションする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町長からの質問に回答する。 ・これまでの活動に対して、ご意見を頂く。
<p>8</p>	<p>【2月】</p> <p>○商品の販売準備を行い、販売する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完売を目指して商品を販売する。
<p>2</p>	<p>【3月】</p> <p>○これまでの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付いた力や成長したこと、生活に生かしたいことなど、自己肯定感を高められる振り返りをする。

9 本時の学習

(1) 本時の目標

他者との意見交流やゲストティーチャーの話等から、それぞれの事象を比較したり関連付けたりすることで、自分の考えに理由や根拠をもつことができる。

(2) 本時の評価規準

他者との意見交流やゲストティーチャーの話等から、それぞれの意見を比較したり関連付けたりすることで、自分の考えに理由や根拠をもつことができている。

(3) 準備物

〔指導者〕 電子黒板〔児童〕 タブレット端末 ワークシート等

(4) 学習の展開 (34/70時間)

<p>学習活動 ○指導者 ・予想される児童の発言</p>	<p>・指導上の留意事項 ○評価規準および判断基準 (方法)</p>
<p>1 本時の活動を各自で確認する。(2分) ○前回の活動を振り返りながら、引き続き活動に取り掛かりましょう。</p> <p>2 各グループで活動する。(40分) (グループで役割を分担して、ワードやパワーポイントにまとめたり、実際にグッズや旗等を作ったりする。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 弁当・・・コンセプト、材料、価格等をパワーポイントにまとめる。(企画書作成) ・ 製作・・・グッズや旗(のぼり)などのデザインをしたり、実際に作成したりする。 ・ 広報・・・販売を促進するためのチラシづくりやPR動画の企画書を作成する。 <p>3 本時の振り返りをする。(3分) ○振り返りを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分達はコンセプトについての記述に説得力が足りないと感じたので、エブレイさんにアドバイスをもらいたい。 ・町内の人と町外の人に向けての告知方法は、分けて考えた方がよいと思ったので、どのような方法が効果的なのかについて考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習の足跡を掲示し、児童が活動の見通しをもつことができるようにする。 ・机間巡視を行い、「神石高原町をPRする」という目的に沿ったものかどうかを意識させる声掛けを行う。 ・「企画」、「製作」、「広報」等、同じ活動を行うグループに分かれ、分からないことがあれば、先生や友達に聞いたり、後日地域の方に聞くための質問をまとめたりする。 <p>○他者との意見交流やゲストティーチャーの話等から、それぞれの意見を比較したり関連付けたりすることで、自分の考えに理由や根拠をもつことができている。(作成物・行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りが次時のめあてになることを意識して記述させる。